

2013年8月26日

報道関係者各位

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会

札幌国際芸術祭2014

イベント第1弾

札幌の芸術文化史を知ろう！

札幌芸術文化史 公開トーク 全10回開催

実施についてのご案内

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会(札幌市中央区 会長:上田文雄)では、来年夏に初開催となる札幌国際芸術祭2014に向けて準備を進めております。

そして、このたび札幌国際芸術祭2014のイベント第1弾として「札幌の芸術文化史を知ろう！」を下記のとおり開催する運びとなりました。

このイベントは、札幌の芸術文化史におけるキーパーソンをゲストに、札幌という土地・歴史の中で芸術文化がどのように育まれてきたかなど、現在に至るまでの歩みと現在進行形の動きについて市民と共有する公開トークシリーズとなります。本開催につながるイベントとして是非皆様に足をお運びいただきたく、ご多用中とは存じますが、是非取材のご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

謹白

記

日時:平成25年8月28日(水)～10月30日(水) 毎週水曜日(全10回)17:30～19:00

会場:札幌駅前通地下歩行空間北2条広場 東側

司会:中田 美知子(株式会社エフエム北海道 常務取締役)

本件についてのお問い合わせ先

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局

(札幌市観光文化局 国際芸術祭担当部)

担当:酒井・杉本

電話:011-211-2314 FAX:011-218-5154 E-mail:info@siaf.jp

HP: <http://www.sapporo-internationalartfestival.jp/>

札幌国際芸術祭2014プレイベント 第1弾 札幌の芸術文化史を知ろう! 札幌芸術文化史 公開トーク 全10回開催

①8月28日(水) 国際芸術祭への軌跡

—国際芸術祭は70年代から始まっていた—

1970年代、札幌では国際的な芸術交流ができない地域性の問題があり、このままではいけないと動き出した人々がいた。その動きは当時北海道初の本格的な美術館として誕生した「北海道近代美術館」をトリガーに1981年、手作りの国際展「ART TODAY・SAPPORO TORIENNALE 第一回国際現代美術展」へとつながっていく。国際美術展を開催したグループ「ART TODAY」の活動を通して、当時の札幌美術界を振り返る貴重なひととき。

GUEST

阿部 典英 氏(美術家) 佐藤 友哉 氏(札幌芸術の森美術館 館長)
吉田 豪介 氏(美術評論家)

②9月4日(水) 駅裏8号倉庫という現象

—80年代、先進的な表現の実験場—

ある劇団の「稽古場がない」「借りるには高い」、そんなシンプルなどこにでもある欲求に呼応して演劇や音楽、映画など様々なジャンルの人間が集うことで1981年から運営された、札幌初のフリースペース「駅裏8号倉庫」。運営団体自らが様々な企画を行うとともに、レンタルスペースとして全国から利用者が続出。ある種の“文化版コワーキングスペース”とも言えたその空間について、成り立ちから倉庫運営後までを当時の運営委員会の面々が語る。

GUEST

飯塚 優子 氏(レッドベリースタジオ主宰/札幌演劇シーズン実行委員会 事務局長)
小室 治夫 氏(写真研究誌 PHOTON+主宰) 滝沢 修 氏(TUC+KYOKU代表) 中島 洋 氏(シアターキノ 代表)

③9月11日(水) 札幌アートのリニューアル

—ベルリンの壁崩壊以降の流れ—

国際芸術展への動きは1970年代から始まり、先人達の個人的な文化外交の努力の一方、当時の20~30代の若手アーティストが1989年のベルリンの壁崩壊以降、急速に台頭。同年、北海道立近代美術館で開催された「リニューアル1990年への前哨展」には現在、中堅、ベテランとして活躍するアーティストが多く登場し、それは札幌で初となった「アーティスト・イン・レジデンス」にもつながっている。当時の中心的メンバーがその時代を振り返る。

GUEST

伊藤 隆介 氏(映像作家・美術作家/北海道教育大学教授)
柴田 尚 氏(NPO法人 S-AIR代表理事) 吉崎 元章 氏(札幌芸術の森美術館 副館長)

④9月18日(水) 札幌ビエンナーレ・プレ企画

—民間による芸術祭の胎動—

札幌における国際芸術祭開催を明確に目標と定めた民間運動が2000年代半ばから登場している。市内ギャラリーと若手を中心となり企画した「FIX・MIX・MAX!」。そして記憶に新しい北海道立近代美術館、札幌芸術の森美術館で連続開催した「札幌ビエンナーレ・プレ企画展」である。これらの民間運動が札幌国際芸術祭開催へのきっかけとなったことは間違いのないだろう。主催した実行委員会メンバーがその意図と活動を語る。

GUEST

カジタ シノブ 氏(イベントプロデューサー)
西川 吉武 氏(札幌くらぶ副会長) 端 聡 氏(CAI現代芸術研究所 代表)

⑤9月25日(水) 地域のアートプロジェクト

—現代アートにおける地域の可能性—

昨今よく耳にするアートプロジェクトという言葉。アートというと美術館やギャラリーの中で行われるものを想像しがちだが、近年はそこから外に飛び出し、その土地ならではの地域性や文脈を捉えて行われているものが多く存在する。北海道でも様々な場所で行われ、それらはアートを通してその場所の普段は見えないものを見せてくれる。これらアートプロジェクトはどのようにして行われているのか、それがもたらす効果は、運営する人々がリアルを語る。

GUEST

今村 育子 氏(札幌駅前通まちづくり(株)企画事業部/美術家) 国松 希根太 氏(彫刻家)
高橋 喜代史 氏(美術家) 藤沢 レオ 氏(美術家) 渡辺 行夫 氏(彫刻家)

⑥10月2日(水) 札幌アート界、現在の動き

—企画ギャラリーの台頭、札幌アーティストの現状—

社会や個人におけるアート作品の存在価値は時代とともに変わり始めている。近年では札幌でも作品の販売・作品展の企画を中心とした、いわゆる企画ギャラリーが現れ始めており、個人や企業が作品を購入できる地場が整いつつある。そういった中で札幌を中心に活動している作家達はどのように動いているのか。現場にいる方達を招き、現在の札幌の動きを2部構成で紹介。

GUEST

(1部)大井 恵子 氏(ギャラリー門馬 代表) 小坂 祐美子 氏(サロンコジカ ディレクター)
中村 一典 氏(ト・オン・カフェ代表)

(2部)風間 天心 氏(美術家) 富田 哲司 氏(現代美術家) 山本 雄基 氏(画家)

⑦10月9日(水) 北海道舞台芸術

—舞台における様々な実験—

舞台表現は限られた空間での展開であり、見る人も限られた時間に見に行かねばならないという現在では制約の多い表現といえる。インターネットで多くのものが見られるようになった現在、だからこそ生で体感できる舞台芸術の重要性が叫ばれ始めている。ダンスや演劇、それ以外にも様々な舞台表現があり、札幌でも多くの挑戦が行われてきた。舞台表現における札幌での取り組み、そして現状について語る。

GUEST

太田 晃正 氏(劇場プロデューサー) 斉藤 ちず 氏(NPO法人コンカリーニョ理事長)
千田 雅子 氏(札幌舞踊会代表) 三部 安紀子 氏(北海道二期会 理事長)

⑧10月16日(水) 札幌の音楽、先進的な試み

—クラシックからノイズまで—

音楽というジャンルは、ヒットチャートを抑える音楽が全てではない。クラシック音楽もあれば実験的な音楽もあり、その多様性が多くの人の心を魅了し続けている。札幌で行われてきた様々な音楽に対する取り組みを、異なるジャンルのゲストを招き、それぞれの視点からアプローチする。

GUEST

木野 哲也 氏(TOBIU CAMPプロデューサー)
竹津 宜男 氏(NPO法人北海道国際音楽交流協会(ハイムス)副理事長)
沼山 良明 氏(NMA(NOW MUSIC ARTS) 主宰)

⑨10月23日(水) 札幌のパブリックアート

—公共空間におけるアート作品—

公園や商業ビル、道路などの公共空間でのアート作品は、今となっては欠かせない存在だ。札幌を歩いててもそこかしこに様々なアート作品を見ることができ、見た人々の記憶に残ることで、その場所の印象をより強くしている。アートを利用することでその空間の存在は機能的・商業的なものだけに留まらず、新たな魅力を追加していると言える。これらはどのような経緯で実現したのか。企画に携わった方々にその成り立ちを伺う。

GUEST

臼井 幸彦 氏(多摩美術大学客員教授) 国松 明日香 氏(彫刻家/北海道芸術学会 会長)
濱田 暁生 氏(株)シー・アイ・エス計画研究所 代表取締役会長)

⑩10月30日(水) 北海道のアート史を振り返って

—歴史を学び未来へ繋ぐ—

シリーズで振り返る「札幌の芸術文化史を知ろう!」の締めくくりとして、長年に渡り北海道芸術文化界を牽引してきた文化施設、芸術学会の中心メンバーを招き、北海道アート史からの学びを通じて札幌の未来を展望する。

GUEST

磯田 憲一 氏(公益財団法人 北海道文化財団 理事長)
奥岡 茂雄 氏(美術評論家)
北村 清彦 氏(北海道大学 文学研究科 教授)